

企業ニュース 三井化学

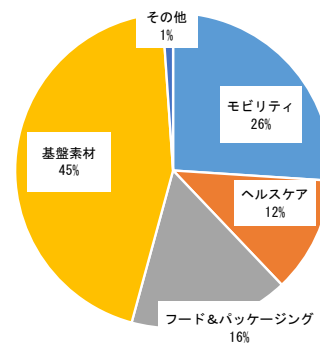
(東証1部: 4183) <https://jp.mitsuichemicals.com/jp/>

作成者: 兵藤三郎

三井グループの総合化学メーカー

1997年に三井石油化学工業と三井東圧化学との合併により誕生した、三井グループの総合化学会社。石油化学製品、基礎化学品やポリウレタン原料などを生産する基盤素材に加え、モビリティ、ヘルスケア、フード&パッケージングを成長3領域と位置付け事業展開している。モビリティは、PPコンパウンドなど素材の軽量化により車両の燃費向上に貢献する樹脂製品を手掛けるほか、機能性ICT関連製品の製造を行っている。5月26日には、EUVペリクルの商業生産を開始した。ヘルスケアは、世界シェアトップのプラスチックメガネレンズのほか、歯科治療用材料、衛生材料用高機能不織布などを製造。フード&パッケージングは食品包装材、半導体製造工程で用いる「イクロステープ」(ウェーハ裏面研削時の表面保護テープ、世界シェアトップ)のほか、農薬や水稻種子なども扱っている。

◇21.3期売上高構成比



(出所) 三井化学資料よりCAM作成

成長3領域がけん引し22.3期最高益更新の見込み

21.3期連結業績は、売上収益が1兆2,117億円、前期比10%減、コア営業利益が851億円、同18%増。2月9日に上方修正した会社計画に対し、売上収益は若干(33億円弱)未達となったが、コア営業利益は81億円の過達となった。計画に対して全主要セグメントで上振れて着地した。モビリティは上期の苦戦を補えなかったが、他のセグメントは増益を確保した。基盤素材を中心に市況上昇に伴う取引条件の良化が寄与した模様。

22.3期連結業績の会社計画は、売上収益が1兆4,000億円、同16%増、コア営業利益が1,150億円、同35%増。全主要セグメントで増収増益。成長3領域および全社のコア営業利益が最高を更新の予想。自動車関連材料、メガネレンズ材料、歯科材料などの需要回復、半導体向け産業テープ、農薬などの利益成長を見込む。20年4-6月期のナフサ価格急落に伴う前年度の在庫評価損の剥落も増益要因となろう。中期的には半導体需要拡大による業績けん引が期待できよう。「イクロステープ」の生産能力増強投資を決定(24.3期以降の収益貢献)し、EUVペリクルの生産設備の営業運転も開始、生産能力の増強にも取り組んでいる。

[株価動向・投資判断]

自動車生産回復、市況好転などで22.3期は増収増益見通し。半導体需要拡大に伴う業績伸長が期待できよう。中期的な視点で注目したい銘柄。

<4183 三井化学 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	コア営業利益	営業利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	1,349,522 (-)	72,330 (-)	64,569 (-)	33,970 (-)	174.5	100.00
21.3	1,211,725 (▲ 10)	85,140 (18)	78,074 (21)	57,873 (70)	298.0	100.00
22.3 予	1,400,000 (16)	115,000 (35)	113,000 (45)	79,000 (37)	403.2	110.00

(注) コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いて算出



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2021/7/21)	3,535 円
年初来高値(高値日)	4,075 円 (21/6/4)
同 安値(安値日)	2,873 円 (21/1/5)
予想 P E R (22.3 予)	8.8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	3,102.5 円
P B R	1.14 倍
予想配当利回り	3.11 %
(1株当たり配当金年110.00円)	
R O E (21.3)	10.2 %
発行済み株式数	20,461 万株